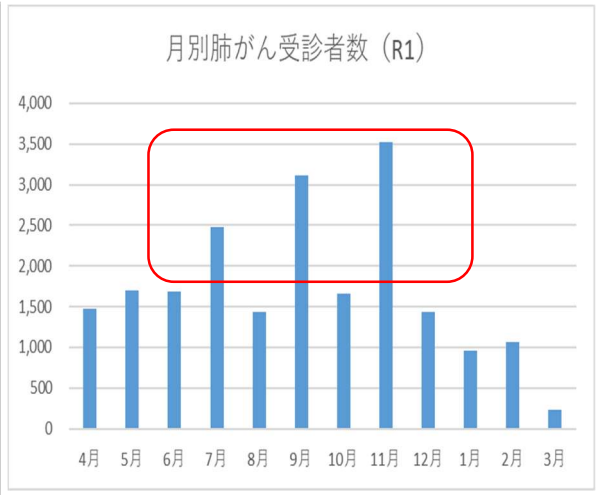
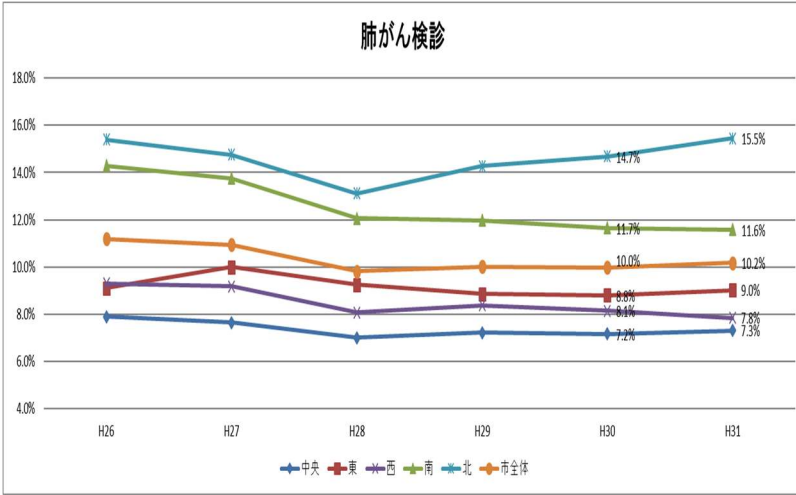


令和元年度がん検診受診率各区比較

○肺がん検診受診率（集団のみで実施）

肺がん検診受診率の推移を区ごとにみると、令和元年度は平成 30 年度に比べ北区が 0.8%、中央区と東区が 0.2% 増加している。また、市の平均より北区が 5.3%、南区が 1.4%高い。

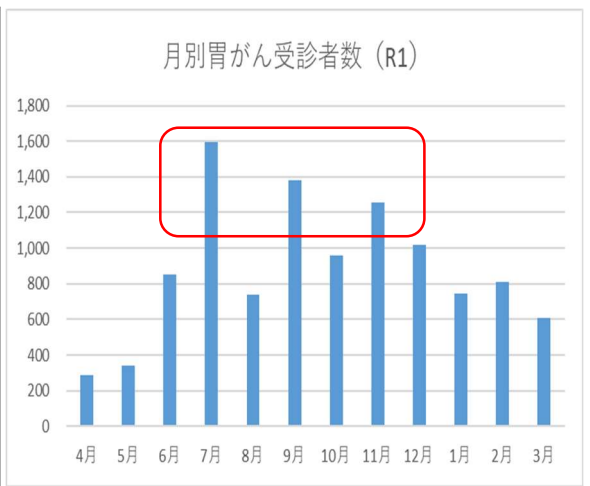
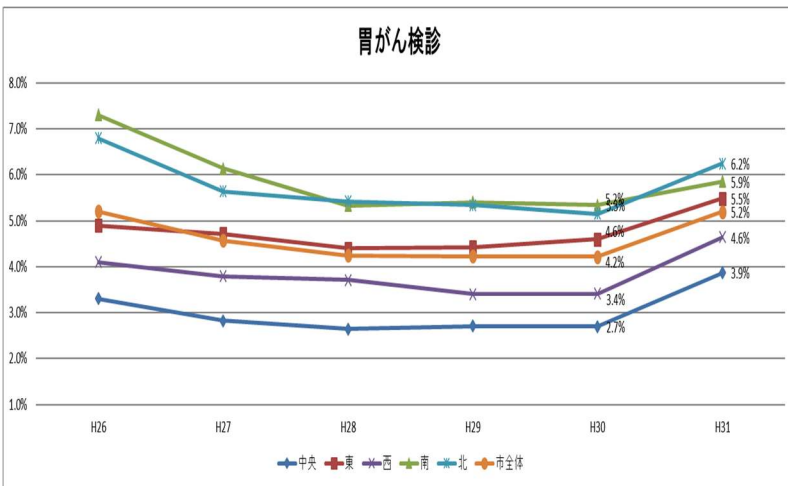
月別に肺がん受診者数をみると、旧町（城南・富合・植木）で特定健診とがん検診を併せた集団健診を実施した 11 月、9 月、7 月が他の月に比べ高くなっていることから、北区と南区での肺がん検診率が高いのは、旧町での集団健診が受診率を引き上げていると考えられる。



○胃がん検診受診率（集団のみで実施）

胃がん検診受診率の推移を区ごとにみると、令和元年度は平成 30 年度に比べ、全区が 0.5~1.2%増加している。令和元年度から新たに内視鏡検査が始まったことが要因とみられる。また、市の平均より北区が 1.0%、南区が 0.7%、東区が 0.3%高いが、中央区と西区も増加率が 1.2%と最も大きかった。

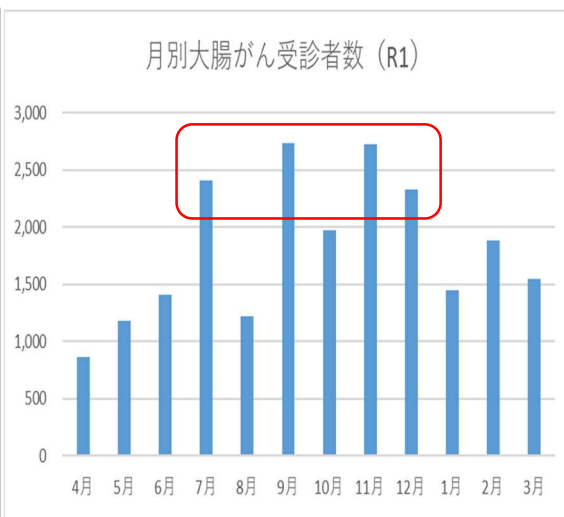
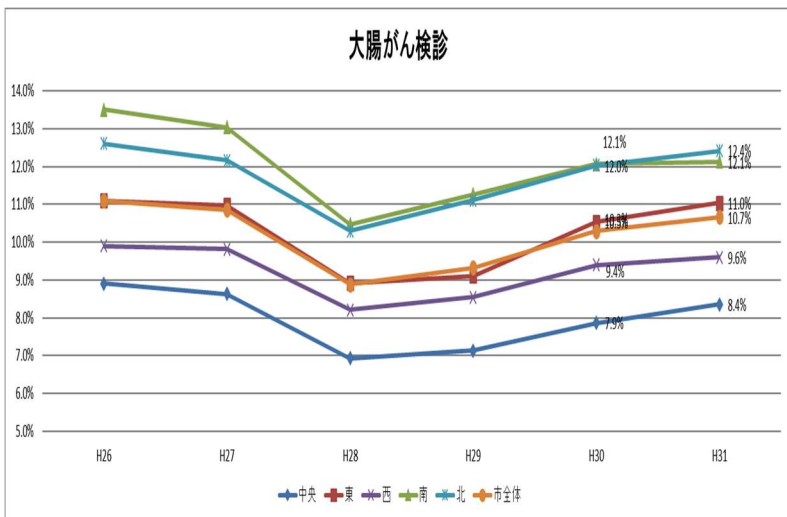
月別に胃がん受診者数をみると、旧町（城南・富合・植木）で特定健診とがん検診を併せた集団健診を実施している 7 月、9 月、11 月が他の月に比べ高くなっていることから、北区と南区での胃がん検診率が高いのは、旧町での集団健診が受診率を引き上げていると考えられる。



○大腸がん検診受診率（集団、個別で実施）

大腸がん検診の推移を区ごとにみると、令和元年度は平成 30 年度に比べ、全区が 0.1～0.5%増加している。また、市の平均より北区が 1.7%、南区が 1.4%、東区が 0.3%高い。

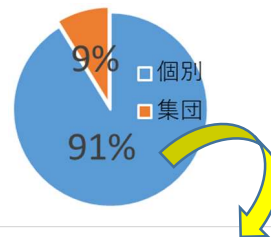
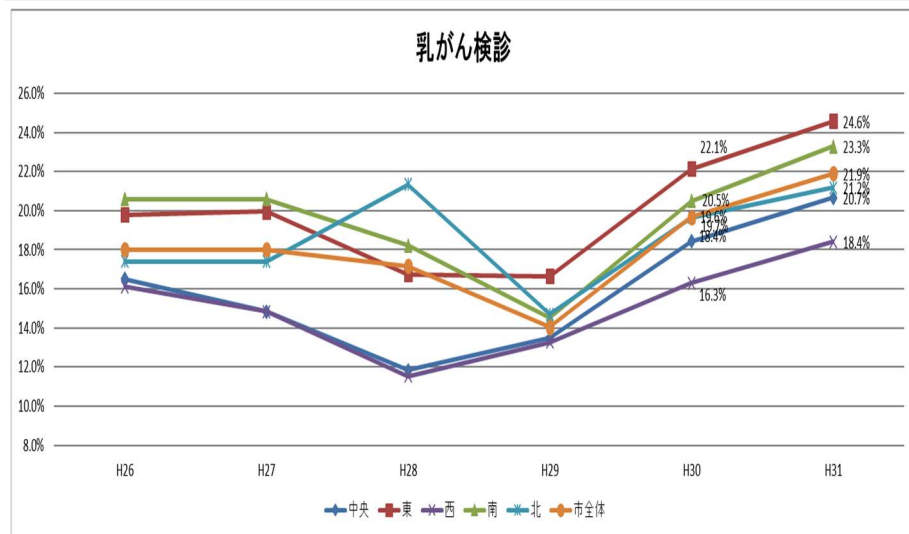
月別に大腸がん受診者数をみると、旧町（城南・富合・植木）での集団健診を実施している 7 月、9 月、11 月が他の月に比べて高いことに加え、上半期より下半期の受診者数が多いことから大腸がん郵送検診が受診者数増加につながっていると考えられる。



○乳がん検診受診率（集団、個別で実施）

乳がん検診の推移を区ごとにみると、令和元年度は平成 30 年度に比べ、全区が 1.5～2.8%増加している。平成 30 年度からハイリスク者への個別受診勧奨（42～48・52～58 歳のうち偶数年齢が対象）を開始し、令和元年度の対象者には初めて届いたことが要因としてあげられる。また、市の平均より東区が 2.7%、南区が 1.4%高い。

乳がん検診は、集団検診 9%、個別検診 91%と大幅に個別検診の割合が高いため、胃・肺・大腸の 3 がん検診と異なり、集団健診の影響が少ないのではないかと考えられ、東区と南区は乳がん個別検診実施機関が比較的多いことが受診率を上げていると考えられる。また、東区は、区内の女性のうち、40-50 歳の年齢区分の方が他年齢区分の方に比べて高いことも要因の一つとして考えられる。



○子宮頸がん検診受診率（集団、個別で実施）

子宮頸がん検診の推移を区ごとにみると、令和元年度は平成 30 年度に比べ、全区が 4.0～4.7%増加している。平成 30 年度からハイリスク者への個別受診勧奨（20～38 歳のうち偶数年齢が対象）を拡充し、令和元年度の対象者には初めて届いたことが要因としてあげられる。また、市の平均より南区が 4.7%、東区が 0.6%高い。

子宮頸がん検診は、集団検 5%、個別検診 95%と大幅に個別検診の割合が高いが、検診機関数は西区の次に南区は少なく、検診機関数の影響は考えられない。

南区内で特に受診率が高い校区は、日吉東、田迎南、飽田南校区である。南区は、区内の女性のうち、20-30 歳の年齢区分の方が他年齢区分の方に比べて高いこと、また、集団健診も要因の一つと考えられる。

